The social welfare in OSAKA

大阪の社会福祉

2024年5月
828

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会　https://www.osaka-sishakyo.jp

“お互いさま”と気配りし合える心と関係をつむぐ

6面
住吉区
第1回　長居公園通りごちゃまぜスポーツ大会
～災害時に活かすつながりづくり～

HB

高い志を持つというのは難しいものだ。持つことだけならできるだろうが、それを実現し、継続するのは難しい。現実的なお金の問題や社会の流れもある▼40年ほど前、上本町に「木馬館」という子どもの本の専門店があった。子どもたちが本好きになるようにと、質の高い子どもの本を選んで店頭に並べた、珍しい本屋さんだった▼子どものためというより、大学の卒論に児童文学を選んだ自分自身のためによく立ち寄っていたが、ある時突然に店がなくなった。町の本屋さんが次々と店じまいしていくという、現実のさきがけのような存在だった▼それが40年もたって、「高い志」の一つの象徴としてこの木馬館の話をしたことが、元経営者の夫人の耳に入り、訪ねてこられた。当時幼稚園児だった私の子どもたちも社会人になり、本好きの孫を育てているなど、あの本、この本の懐かしい昔話の後で夫人の一言。「主人が喜びます」▼40年前の挫折を今も悔しい思いでおられるのだとか。その志を評価してくれる人がいたことが、何よりもうれしいと▼ところで、私自身は高い志をもって人生を歩んできただろうかと、ふと後悔が頭の隅をよぎってしまった。（石）

「大阪の社会福祉」は共同募金助成金を活用して発行しています。

被災者の思いを一心に！③
七尾市災害ボランティアセンターへの運営支援

令和6年 能登半島地震

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」で被害を受けた石川県内の市町村社協では被災された方々が元の生活を一日でも早く取り戻せるよう、災害ボランティアセンター（以下、災害VC）を開設しています。被災者・被災地の力になりたいという思いを持ったボランティアが、多数駆けつけており、被災者に寄り添いながら活動を展開しています。

能登半島地震の被害状況で、現在把握している内容としては人的被害1555人、住宅被害では11万9387棟（令和6年4月26日消防庁情報）となっています。

大阪市・区社協では石川県七尾市へ2月17日から現在（5月時点）も継続して、近畿ブロックの社協職員とともに七尾市災害VCに派遣しています。

石川県七尾市では、3月24日から市内の野球場にボランティアテント村が設置されました。このテント村は、西日本豪雨の際に受けた支援の恩返しをしたいと岡山県総社市が中心になり、NPO法人などと連携して設営されました。被害が大きく宿泊場所の確保が難しいなかで、ボランティアの活動時間をできる限り確保するために運営されるこのテント村は、5月末まで予定されています。

▲七尾市内の様子（3月22日）

大阪市・区社協からの職員も、現地の社協職員とともに災害VCを運営し、被災者のニーズに寄り添いながら支援しています。第15～17、19クールとして派遣した職員が現地での活動で感じたことを掲載します。（過去の掲載は令和6年3・4月号を参照）

第15クール：3月20日～26日
東成区社会福祉協議会
子ども・子育てプラザ
マネージャー
島岡 繁希

「こどもが春から小学生になるので、それまでに自宅を住める状態にしたい」等、復興に願いを込めたさまざまな相談が、災害VCに寄せられました。

私が携わったクールは、ボランティア受入人数が1日あたり100人から140人に拡大するタイミングで、ボランティアを受付してから活動先へ送り出すまでの動線やレイアウトの再検討・再構築が一つのミッションでした。

これからライフラインが復旧され、ボランティア受入人数がさらに拡大していくことを期待しています。一人ひとりの暮らしが再建されることを願い、関心を持ち続けるとともに、積極的に広げていきたいと思います。

第16クール：3月24日～30日
住吉区社会福祉協議会
第１層生活支援
コーディネーター
西川 雅也

私の派遣クールでの課題は、新たに開設された七尾市ボランティアテント村からのボランティア受入開始に伴う災害VCの動線やレイアウト・全体集約、ニーズとボランティアのマッチングバランス調整、支援ニーズ追加調整、運営手順の抜本的見直し等でした。求められたのはチーム一丸での柔軟かつ臨機応変な発想・判断・対応で、七尾市社協や派遣メンバーと試行錯誤を幾度も重ね、ボランティアからも叱咤激励を多々いただきました。災害VC全体の被災地・被災者への熱い想いを五感で感じながら運営の道筋を模索した濃密な時間を今後に活かしたいと思います。

▲バディコム（スマホとインターネット通信でできる無線機のようなもの）の説明（3月20日）

第17クール：3月28日～4月3日
住之江区社会福祉協議会
地域支援担当
西田 樹

私は主に現地調査を担当しました。そのなかで、ニーズ依頼者の要望に応えることとボランティアの安全を確保することの双方が重要だと学びました。短い期間の支援で心残りはありますが、地元の方々や七尾市社協、近畿ブロック、行政等と協力して災害VCの運営支援をおこなえたことは、人生の財産となりました。

「地元主体だから地元の判断に任す」のではなく、「地元の方に寄り添いながら、ともに同じ方向を向いてともに考える」ことが必要だと感じました。

第19クール：4月5日～11日
大阪市社会福祉
研修・情報センター
寺西 綾香

私は車両班の担当となり、活動場所に移動するための送迎車や災害廃棄物を運搬するトラックの調整をしました。臨機応変に対応する場面が多かったですが、職員が協力しあい、またボランティアの方にも助けられながら取り組みました。

印象に残った言葉で「泥をみないで人を見る」というものがあります。被災されたご自宅を淡々と片付けるだけではなく、ご本人に寄り添うことが大切ということを職員やボランティアの方が常に胸に置いておく重要性を感じました。

▲被災者宅へ訪問した時の様子

災害ボランティアセンターについて

被災住民
- 支援依頼
- 困っていることを相談

災害ボランティアセンター

ボランティア
- 情報発信
- マッチング依頼
- 協働のネットワークづくり

- ボランティア登録

被災住民
- 被災状況や支援ニーズの調査
- ボランティアを派遣し、生活再建をめざす

Q 災害ボランティアに参加するには、まず何をする？

A 被災地の支援ニーズは、災害の種類その時々によって変化するため、災害ボランティアの活動内容もさまざまです。まずは、被災地の状況やボランティア受入れ等を確認する必要があるため、現地の社協等から正確な情報を収集することが大切です。

▲大阪市社協HP

令和6年 能登半島地震災害義援金募集

みなさまのあたたかいご支援、ご協力をお願いいたします。

〈受付期間〉
令和6年12月27日(金)まで

〈銀行口座〉
りそな銀行 上六支店（普）6804741

〈名義〉
大阪市社協 義援金口
（オオサカシシャキョウ ギエンキングチ）

※詳細については
大阪市社協 総務課 06-6765-5601まで

関係団体との被災地支援の取組み

ライオンズフェスタ

大阪府・和歌山県を範囲とするライオンズクラブ国際協会335-B地区の主催により、4月13日午前10時～午後6時、梅田スカイビルワンダースクエアで「関西から能登へ」をテーマに、復興支援イベントとしてライオンズフェスタが開催され、多くの方が参加されました。このイベントはライオンズクラブ国際協会335-B地区が能登半島地震の復興に向けて支援の輪を広げるために、取り組んだものです。

各種アトラクションや展示等を通して、参加者が被災地について知り、自分や家族、大切な人を守るための防災について身近に感じ、また、いま自分たちが被災地に「できる範囲で、できること」を考える機会にもなりました。

市社協は、ライオンズクラブ国際協会335-B地区と平成31年に「災害時におけるボランティア支援に関する協定」を締結していることもあり、当日はブースを設置し、能登半島地震義援金の募金を呼びかけました。

今回のイベントの収益は復興支援のための義援金として被災地へ送られます。今後も引き続き、各種関係団体等と連携して、被災地支援の取組みを協働してすすめていきます。

▲開催にあたって西尾良典地区ガバナーからあいさつ

▲市社協もブースを出し、被災地への支援状況の展示と被災地支援のための募金を呼びかけました

「大阪の社会福祉」は共同募金助成金を活用して発行しています。

市社協

第3期 大阪市地域福祉活動推進計画 ①

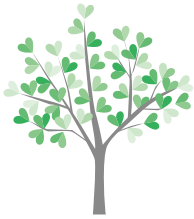
市社協は、令和6年3月に、第3期 大阪市地域福祉活動推進計画（令和6～8年度／略称：第3期推進計画）を策定し、4月から計画期間がスタートしました。今回は計画の全体像を紹介します。

「地域福祉活動推進計画」とは

「地域福祉活動推進計画」は、地域住民をはじめとする多様な活動主体が連携・協働して地域福祉を推進するための目標や方向性を示す、民間の活動・行動計画です。

一方、大阪市は行政計画として「地域福祉基本計画」を策定しています。両計画はともに令和6年度から第3期を迎えており、相互に理念・方向性を共有し、連携して地域福祉をすすめていくこととしています。

▼推進計画はこちらからご覧いただけます
（市社協発行物・令和5年度）



社会情勢の変化をふまえて策定

全4章のうち、第1章は「計画の位置付け」、第2章は「大阪市の地域福祉を取り巻く状況」を整理したうえで、第3章で「地域福祉推進に向けた基本理念と基本目標」を示しています。

計画の基本理念は、「つながり・支え合うことができる福祉コミュニティをつくる」とし、「人権尊重・権利擁護支援の推進」「災害への備え」を推進にあたっての大切な視点と位置付けています。

基本目標は、つながりをつくる「地域づくり」と、暮らしを支える「相談支援」の2つを設定し、その重なる部分に双方からの「参加支援」を位置付けています。これらは、国が新たに創設した「重層的支援体制整備事業」における3つの支援をふまえて設定しており、なかでも「参加支援」を重点推進項目としています。

改めて「参加支援」を考える

第3期推進計画における「参加支援」は、国が示す参加支援事業よりも広く捉えており、何らかの生活課題を抱えた「当事者の社会参加」とともに、幅広い世代のすべての住民を捉えて「誰もが社会参加」をめざすものとしています。これらを縦軸とし、横軸には「場への参加」と「担い手としての参画」という関わり方の幅を表した四象限の図を計画に掲載しています。

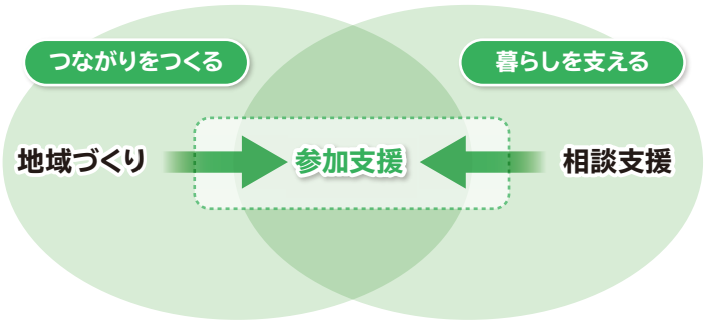
一人ひとりの状況や場面により、「まずは場に参加し、少しずつできる部分から担い手に」あるいは「担い手としての活動が難しくなっても、可能な限り場に参加し続けられるように」という関わりなど、日頃の取組みをふりかえり、さまざまな形での社会参加の促進・支援を考え、話し合うきっかけとしてこの図をご活用ください。

■ 大阪市における地域福祉基本計画と地域福祉活動推進計画について

大阪市地域福祉基本計画（大阪市）	大阪市地域福祉活動推進計画（市社協）
行政施策を通じた地域福祉の推進	多様な民間活動の連携・協働による地域福祉の推進

相互に理念・方向性を共有し
それぞれ令和6～8年度の3年間を計画期間として、連携・協働

■ 2つの基本目標と「参加支援」の関係性

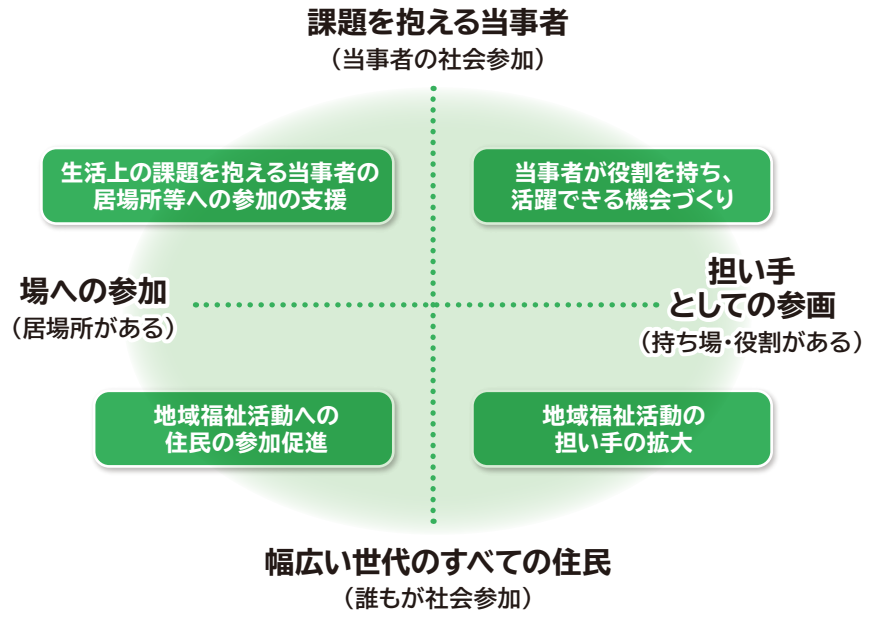


区ごと・項目ごとに目標を設定

第3章でまとめた地域福祉活動の目標や推進項目の実現に向けて、第4章では「大阪市社協・区社協の取組み方針」として、これから3年間、市全体で重点的に取り組む事項を示しています。

この内容に沿って、区ごとの現状・課題をふまえて効果的に推進できるよう、市・区社協では項目ごとに中期目標や取組み内容をまとめた「実行計画」を定め、年度単位の事業計画と連動して推進を図ることとしています。また、新たに数値による評価指標を設定し、項目ごとに市全体の状況を進捗確認しながら推進していきます。

■ 社会参加（参加支援）に関する整理

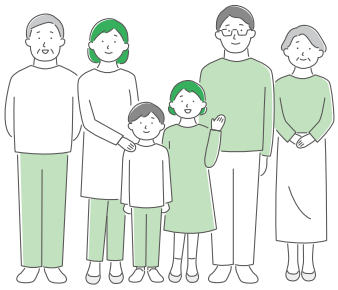


■ 市・区社協として実践する具体的項目

区社協の取組み	市社協の取組み	
1 小地域福祉活動の支援	1 地域福祉活動の推進に向けた支援	広域での取組みの推進
(1) 見守り活動の推進		
(2) 居場所づくりの推進	2 市ボランティア・市民活動センターによる取組み	区社協活動の支援
(3) 地域での話し合う場づくりの支援		
2 参画・協働による地域づくり・場づくり	3 地域こども支援ネットワーク事業の推進	区社協活動の支援
(1) ボランティア・市民活動、福祉教育の推進		
(2) こどもの居場所（こども食堂や学習の場、遊びの場等）の立上げ・継続の支援		
(3) 社会福祉施設による地域における公益的な活動の推進	4 社会福祉施設の公益的な取組みの推進・支援	区社協活動の支援
3 生活課題・福祉課題への対応	5 総合相談支援体制の強化に向けた取組み	区社協活動の支援
(1) 複合的な課題を抱えた人を支える相談支援体制の強化		
(2) 生活のしづらさを抱える人を支える取組み		
(3) 権利擁護支援の推進	6 権利擁護支援の推進	区社協活動の支援
4 防災・災害への備え	7 市社協・区社協による一体的な災害に備えた取組み	区社協活動の支援
住民・関係機関との協働による災害時に備えた体制づくり		

計画策定にあたっては、大阪市地域福祉活動推進委員会での検討のほか、区社協職員・学識経験者で構成する策定会議やさまざまな意見集約を実施したほか、地域福祉活動に関する各種調査結果についても反映しました。

次月号も引き続き本計画について紹介します。



▲策定会議（令和6年1月）

「大阪の社会福祉」は共同募金助成金を活用して発行しています。

住吉区

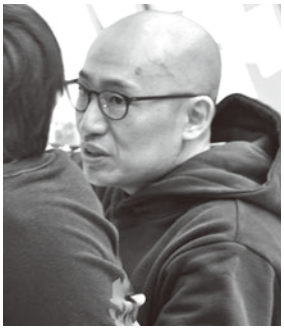
第1回 長居公園通りごちゃまぜスポーツ大会 ～災害時に活かすつながりづくり～

まちに暮らす みんながつながる 場づくりをめざして

3月31日午後2時～4時30分に、長居障がい者スポーツセンターで「ごちゃまぜスポーツ大会」が開催され、市民・関係団体、障がい当事者も含めて、約200人もの方が参加しました。この取組みは、「合同会社さっとさんがLab」と「ごちゃまぜスポーツ大会実行委員会」が主催となり、住吉区社協も協力して開催され、地域の活性化と助け合いの心や関係を育むイベントとして企画されたものです。

ご当地ゆるスポーツを考案し、関係を紡ぐツールに

当日は、ボッチャや棒サッカー、かっぱラグビー、スピードリフティングなどのブースが設けられました。そのほか、ばらばらに散らばっているくつ下の左右を見つけてカゴに入れる「くつ下玉入れ」を少しアレンジして、同じ番号のくつ下を持っている車いすの方を探して、その方と一緒にくつ下をカゴに入れるルールにしたユニークなゲームや、参加者が記入した「災害時に、近くの高齢者や障がいのある人にどんなお手伝いができそうですか」「災害が起こった時に近くの人に助けてほしいことは何ですか」のワークシートをもとに災害時の助け合いについて考える防災ミニワークショップなどがありました。誰でも参加でき、楽しみながら、地域社会のつながりの大切さを考え直し、また、防災についても考える機会となりました。


▲主催メンバーの大河内さん

主催メンバーの一人で、願生寺（住吉区）住職の大河内大博さんは、「きっかけは医療的ケア児を知ってもらえる機会をつくりたいと考えたことでした。また、要配慮者をテーマに防災ワークショップを何回か実施して、地域からは『障がいのある当事者からどのような協力が必要か声をあげてほしい』、当事者からは『地域とつながる機会が少ないからつながりたい』などの声を聞き、互いにお節介の関係がつくれるように今回企画しました」と語りました。

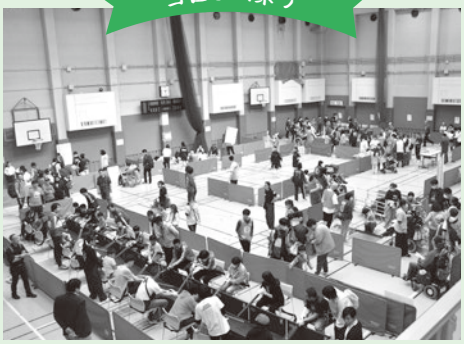
普段から自分のできることを考える

防災ワークショップでは、参加者からの意見をもとに、願生寺プロジェクトに以前から参加しているオフィス園崎代表の園崎秀治さんと大阪大学大学院教授の小西かおるさんがメッセージを送りました。園崎さんは、「出ている意見を見ると、助けることができるのは、やはり近くに住んでいる人です。何かできること、助けることはないかと考え、日頃から声をかけ合うことが大切です」と話しました。小西さんは「失語症等で見た目だけでは何に困っているか聞かないとわからないこともあるため、憶測だけで判断しないことが大切です。本日は自然と声かけしている場面もありましたので、普段からできていると災害時にも役立つと思います」とコメントしました。

参加者からは、「普段交流できないような方々と交流でき、また、体験ができないようなことに参加できて、とても楽しかったです」「大会に参加していろいろと参考になった。最後のくつ下玉入れは助け合いがうまれていたと思います」「ボッチャで、私が車いすを使用していたら、『レールを使ってボッチャもできるよ』と声をかけてくれました。日常生活でもこのような光景がもっと見られるといいなと思いました」といった声がありました。

イベントを終えて大河内さんは、「想定以上にたくさんの方に参加していただけ、また、こども多く参加してくれてよかったです。”さっとさんが“には良縁という意味があり、今回縁が縁をつないで、みんなで協力してイベントが実施できました。今後は、まだ出会えていない方ともっとつながりをもてるように、引き続き第2回3回と実施していきたいと思います」と語りました。

当日の様子


▲当日は約200人の参加があり、賑わいました

▲住吉区社協からも、転がして楽しめるストラックアウトのブースを出しました

▲防災ワークショップで出た意見をもとに園崎さん（左）と小西さん（右）からコメント

市社協

皆さまの善意を大切に

―善意銀行・一般寄附―

市社協では、ご寄附を社会福祉施設や団体による事業へ払い出しをおこなったり、助成金として活用する「善意銀行」と、本会のさまざまな事業に活用する「一般寄附」をお受けしており、地域福祉の推進などに役立てています。

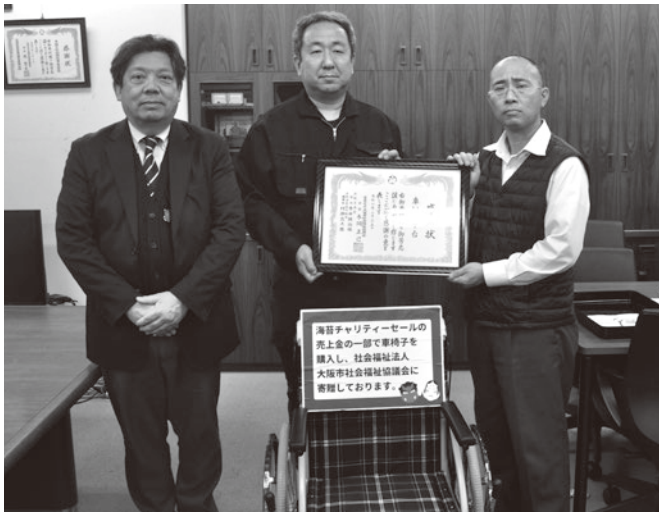
「善意銀行」では、難波別院（南御堂）から、4月6日開催の「南御堂花まつりコンサート」に100人招待していただき、大阪海苔協同組合からは、3月1日に車いす10台をご寄贈いただきました。

寄附された「南御堂花まつりコンサート」は、市内の障害児・者施設連絡協議会や地域こども支援ネットワークを通して参加者を募り、参加させていただきました。

車いすは、大阪市生活保護施設連盟を通じて、市内の社会福祉施設において、有効に活用させていただいています。

「一般寄附」では、3月4日に竹中工務店大阪本店安全衛生協力会から、災害時の支援等に活用するため、使い捨て防塵マスク300枚、プロテクション踏み抜き100枚、匠の手カットレジスト手袋100枚と、45,800円の寄附を賜りました。

▲難波別院（南御堂）から「南御堂花まつりコンサート」にご招待いただきました



▲大阪海苔協同組合（写真3人）から車いす10台をいただきました

風をよむ

世界ソーシャルワーク・デー2024

大阪公立大学大学院生活科学研究科 教授 鵜川 重和

2024年3月19日は、世界ソーシャルワーク・デーであった。世界ソーシャルワーク・デーの歴史や目的、2023年のテーマは、大阪の社会福祉第815号（2023年4月）で紹介させていただいたため、そちらを参照されたい。2024年のテーマは、"Buen Vivir：Shared Future for Transformative Change（ブエン・ヴィヴィール：人びとと共につくる、大きな変化をもたらす未来）"である（IFSW，2024）。今年のテーマが決定された背景は次の通りである。世界には、戦争、環境破壊、貧困、政治的な不平等など様々な問題があり、このような問題の解決に向けてソーシャルワークを変化させることが求められている。変化させるためには、今までのやり方を見直し、地域に住む人々がリーダーシップをとっていけるよう支援を行い、また昔から伝わる先住民たちの知恵も取り入れた新しいアプローチが必要となる。こうした変化の鍵となる考え方に「ブエン・ヴィヴィール」が注目された。これは「地域の人々が力を合わせ、自然と調和をとりながらバランスのとれた発展を目指すときにこそ、真の幸せが実現できる」という南米アンデスの先住民の考え方であり、人と人、そして人と自然のつながりの中でお互いを助け合うこと、支え合うことの重要性が強調された哲学である。この「ブエン・ヴィヴィール」の考え方をより一層広めていくことで、誰もが大切にされ、尊敬し合い、理解し合い、人権が守られる、自然と共生できる社会をつくるべきだという想いが込められている（IFSW，2024）。

引用：International federation on social work：IFSW.(2024). WORLD SOCIAL WORK DAY 2024. https：//www.ifsw.org/social-work-action/world-social-work-day/world-social-work-day-2024/

「大阪の社会福祉」は共同募金助成金を活用して発行しています。

大阪の社会福祉 vol.828
令和6年5月発行（毎月1回発行）　発行／社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会　編集・発行人／吉村 浩
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10（大阪市立社会福祉センター内）　Tel.06-6765-5601　Fax.06-6765-5605　https://www.osaka-sishakyo.jp

大阪市社協に4月から新たな職員が仲間に加わりました♪

信頼される職員をめざして、一生懸命がんばりますので、よろしくお願いします！

全国キャンペーン

5月は孤独・孤立対策強化月間です

孤独・孤立の問題が広がり、社会全体での解決に向けた取組みが求められているなか、国の「孤独・孤立対策官民プラットフォーム」を中心に、孤独・孤立についての理解・意識や機運を社会全体で高めていくため、毎年5月を強化月間として集中的に取組みを呼びかけることとなりました。

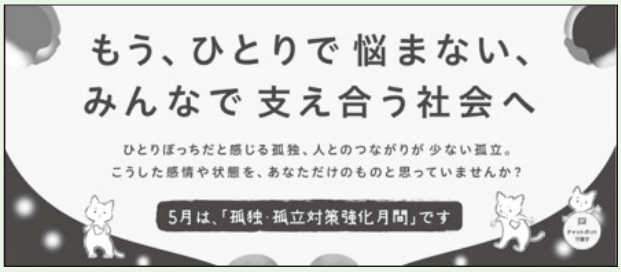
市・区社協では、身近な地域における見守り活動や居場所づくり、各種相談支援事業を通して、孤独・孤立の予防や解消に向けた取組みをすすめています。

市・区社協としてもこの取組みに賛同し、強化月間を契機として、孤独・孤立対策の取組みを一層推進していきます。

孤独・孤立対策
官民連携プラットフォーム
5月は、「孤独・孤立対策強化月間」です

全国キャンペーンに関する情報はこちらから

https://www.notalone-cas.go.jp/category/monthly/



立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上
三井住友海上の安心
GK
クルマの保険　すまいの保険　ケガの保険
www.ms-ins.com

5/12（日） 支えあう 住みよい社会 地域から 民生委員・児童委員の日

民生委員・児童委員は、困った時の身近な相談相手として、地域の方々の生活に寄り添い、笑顔、安全安心のために、それぞれの地域において関係機関とも連携し、見守り活動など、さまざまな取組みをおこなっています。

全国民生委員児童委員連合会は、5月12日から18日を「民生委員・児童委員の日活動強化週間」とし、全国23万人の民生委員・児童委員が一斉にさまざまなPR活動等を展開することにより、地域住民や関係団体などに、その活動や存在について、一層の理解促進を図り、委員活動の充実につなげていくことをめざしています。

市内各区民生委員児童委員協議会においても、のぼり旗や懸垂幕の掲出、PRグッズの配布、ポスター掲示等の啓発活動をおこなっています。

▲民生委員・児童委員PRポスター